

第9回八幡市まち・ひと・しごと創生検討懇談会会議録要旨

○日 時：令和6年5月30日（木） 13：00～：15：10

○場 所：八幡市役所本庁舎 5階 会議室5-1

○傍聴者：なし

1 開会

2 市長あいさつ

3 議事（協議・報告）

(1) 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る総括及び今後の取組の方向性について
（資料1、資料1別紙）

→計画期間の取組結果（R2～R6のうちR2～R5）を報告

(2) 八幡市の人口について（資料2）

→2040年の市人口を6万5千人以上とする人口ビジョンについて、数値（6万5千人）の修正をするべきか等への意見。

(3) 次期総合戦略の策定について（資料3）

→人口が想定よりも減少しているが、4つの柱や施策について現行戦略から大きく変える必要はないか。デジタル化への意見等

4 その他

(1) 懇談会でいただいたご意見について

いただいたご意見について、とりまとめのうえ、庁内で共有するとともに、本日の会議内容について、議事録を作成のうえ、市ホームページにて公開を予定している旨説明、了承。

(2) 次回懇談会について

八幡市まち・ひと・しごと創生検討懇談会を7月25日（木）10時に開催する予定。

5 閉会

【主な意見等】

(1) 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る総括及び今後の方向性について

①子どもが輝く未来の創生「やわた子ども未来プロジェクト」

<委員>

八幡市は子育てしやすい環境が整っている街だと思う。

<委員>

学童保育や母子家庭に対する支援が充実している。また、八幡市に多く立地している中小企業が潤えば、より良い街になるのではないかと。

<委員>

自然環境も豊かであると考えている。

<委員>

児童センター等放課後の子どもたちの居場所が充実していると考える。

<委員>

今後は、子育てしやすい環境要因をさらに分析し、そこを伸ばしていったらどうか。

②健幸都市の創生「やわたスマートウェルネスシティプロジェクト」

<委員>

近隣公園の設備について、子ども向けだけでなく、高齢者に向けた設備を設置してはどうか。

<委員>

ラジオ体操の実施状況はどうか。

<事務局>

だんだんテラスにおいて、高齢者の方が集まって行っている。また、事業所が行っているところもあると聞いている。

<委員>

石清水八幡宮辺りでも実施されている。夏休みには子どもたちも参加している様子。

<委員>

ラジオ体操等の地域交流活動の立ち上げを支援する取組が必要ではないか。

<委員>

健幸のまちづくりは国の補助金を活用していたのか。

<事務局>

昨年度までは、地方創生推進交付金を活用していたが、計画期間の終了にともない、今年度は、市の単独事業となっている。

<委員>

当該事業について、デジタルと絡めて交付金を活用できないか。

<事務局>

交付金の活用には、次の段階の健康づくりを示す必要があり、デジタル活用を含めて課題となっている。市の単独事業ではあるが、事業に参加した人と参加していない人で、医療費に差が出ており、医療費の抑制も含めて事業の継続は必要であると考えます。

<委員>

大きな施設・イベントと同時に身近な公園を活用する等、身近な環境を見直して、健康づくりに活かす取組も考えられるのではないかと。

③観幸のまちの創生「訪れてよしのやわた魅力向上プロジェクト」

<委員>

さくら祭りの来場者数は、インバウンドの影響を含めても減少しており、お客さんが選ぶ

観光地に変容が見られる。

<委員>

サステナブルツーリズムの観点から、観光消費額増加に繋がるよう、宿泊施設の整備等により、観光客を分散させる仕組みが必要ではないか。また、観光の鍵となる1つのポイントは食である。その食が八幡市には少ないように感じる。地場産の販売強化・開発していくことが必要ではないか。

<委員>

観光協会では、市ブランドのヤワタカラを駅前でもPRしているが、商品開発が進んでいない部分もあり、十分なPRになっていないと感じる。

<委員>

熊取町は、町の特産品をブランド認定するための委員会を立ち上げ、毎月市民がブランド認定するか否かを審査するというプロセスで、ブランドの数を増やす取組を実施している。

<委員>

現状、市の取組では、人手が足りなく、年に1度程度のイベント開催が精一杯である。

<委員>

地域課題については、学生の力を活用してはどうか。自ら課題を見つけ、考え、解決する能力は生きる力に繋がると考える。その取組が人材育成であったり、シビックプライドの醸成に繋がるとはではないか。引いては、人口流失の抑制にも繋がると考える。

④みんなで創る多機能な力を有したまちの創生「住んでよしのやわたチャレンジプロジェクト」

<委員>

帝国データバンクによると、市内の起業数は、2ヶ月に1社程度である。しかし、市や商工会の起業をバックアップするワンストップサービスの相談件数は少ない。これは本気で起業を志す人は、当該サービスを利用することなく、自力で起業してしまうことが要因であると考えられる。

<委員>

農業も産業であるということを含めて、経営管理等考える必要があるのではないか。

<委員>

現行の総合戦略の4本の柱については、個別の事業における課題はあったものの、委員からの特段の修正等の意見はなかったということとしたい。

(2) 八幡市の人口について

<委員>

外国人が市内に転入している要因は把握しているか。例えば東京都葛飾区ではどうか。

<委員>

住民基本台帳の情報になるので、要因はわかりかねるが、葛飾区の事業所で受入れた外国人の次の勤務地が八幡市となった可能性はある。

<委員>

人口ビジョンについては、市の方針を示したうえで、設定することが望ましいのではないか。

<事務局>

市としては、働く場づくり等に取り組み、平成28年に設定した人口ビジョンを目標値とし、地方創生に取り組んできた。しかし、人口が想定よりも下振れしている現状に合わせ、目標の下方修正を検討する必要もあるのではないかと考えている。

<委員>

人口が減っている要因はどこにあるか。

<事務局>

出生数が少ないことである。転出・転入については外国人を含めれば増となっているが、若い世代の日本人が転出している。出生率を上げても、出生数に大きな影響を及ぼしていると考えている。

<委員>

外国人の出生状況はどうか。

<事務局>

外国人は一定期間で帰国する技能実習生が多数を占めると思われるため、出生数は少ないと考える。

<委員>

国の動向によると外国人の滞在要件は、緩んできているため、将来的に日本に定住する外国人が増える可能性がある。

<委員>

外国人の多国籍化が進んでいる。外国人の受入れについて、市はどのように考えているか。

<事務局>

技能実習生のように一定期間で帰国する外国人が多数を占める一方で、外国人の子どもが多くなってきている小学校もある。外国人と共生するための環境づくりが必要であると考えている。取組として、日本語指導ボランティアの育成や文化の相互理解を促すためのイベントを開催している。ただし、様々な事情で転入されており、全ての外国人の実態把握や支援は難しい状況である。

<委員>

国は、外国人の受入をどのように考えているか。

<事務局>

技能実習生の制度緩和を見ても、日本人の労働力人口が減っていく中で、それを補完する

役割として外国人を受け入れている。一定の外国人を受け入れ、共生を図っていく方針なのではないか。

<委員>

人口ビジョンを改定するとどのような影響が出るか。

<事務局>

人口ビジョンを用いた市の計画に影響がある。また、人口ビジョンは市の中長期の目標値であるが、各種計画の中では、将来的な需要の予測に利用しているものもあり、今後の施策に大きく影響する可能性がある。いつまで今の人口ビジョンを用いるか、市としても悩ましいところ。

<委員>

人口減少は構造的に止まっていない状況であるため、どこかのタイミングで人口ビジョンを見直す必要があると考える。しかし、令和2年の乖離幅は約2,500人であること、改定をすると施策に大きな影響を与えることに鑑み、このタイミングでは、人口ビジョンは改定せず、一旦様子見が良いのではないか。

(3) 次期総合戦略の策定について

<委員>

コミュニケーション能力等教育面から見て、デジタルはアナログと併用し、活用することが必要ではないか。

<委員>

デジタル化が進んでも、日本人らしい「配慮」という面で、アナログ的な考え方は、一定必要になるのではないか。

<委員>

農業でもスマート農業等デジタル化が進んでいると感じる。

<委員>

デジタルの扱いが得意でない子どももいる。そのような人たちへ一定の配慮が必要ではないか。

<委員>

チラシをデジタル化し、紙媒体を作成していない団体がある。デジタルのみになると、伝わらない情報も出てくるため、デジタルとアナログを上手く活用する視点が必要ではないか。

<委員>

会社業務でもデジタルでないと対応出来ないことが増えている。もちろんアナログの良さもあるが、今後において、デジタル化は必須ではないか。

全体を通しての意見

<委員>

八幡市の魅力である「住みやすい住宅地」が表に出ていないように感じる。働きに出て、帰って来る住宅地としての魅力をより、発信出来たら良いと考える。